

## 令和5年第9回奥出雲町教育委員会定例会会議録

日 時 令和5年9月20日(水)  
開 会 15時00分  
閉 会 17時30分  
場 所 横田庁舎 3階 第3委員会室  
出席委員 福田教育長職務代理者 谷尻教育委員 荒金教育委員  
松崎教育委員

委員会事務局 高尾課長

教育長

本日は、ご多忙なところを定例会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

先般、教科用図書の採択をしていただきましたが、8月末の段階で出雲市、雲南市、飯南町の各教育委員会でも承認されましたので、お示ししました原案通りで教科用図書が採択されました。この教科用図書は、来年、再来年、使用することになります。

8月定例会以降の主な動向ですが、8月末から順次、各学校2学期が始まっています。31日には、仁多郡の弁論大会が行われ、今年度は横田中学校から2名、仁多中学校から3名、代表として参加しました。今年は、仁多中学校の生徒が弁論を聞くという形で仁多会場が行われ、横田中学校の生徒が県大会へ出場することになりました。この生徒は、鳥上小学校の閉校に合わせてご自身が地区の活動を頑張っているということ、さらに、もっと活動をしていきたいという内容の弁論をしていました。とてもいい内容だったと思います。

9月4日から9月定例議会が始まり、一般質問がありました。教育長としての見解を問われた質疑があったため、教職員がそれぞれのワークライフバランスを意識し、仕事と家庭を両立しやすい職場環境づくりに行政の立場から積極的に取り組み、男性教職員も含めて、教職員が産休・育休を取得しやすいように代替職員の確保に努める。働き方改革に取り組み、超過勤務の情報を継続的に提供していく。ICT機器の活用を含め、教職員の資質向上に役立つ研修会を県と連携して実施していくこと等を回答しています。また、別日に小田川議員から教職員の時間外勤務について質問がありました。現在、教職員の勤怠は、事務用PCのログインとログアウトの時間で掌握し、このデータを各学校長へ提供しています。全国的に校長の勤務時間が長くなる傾向がありますが、奥出雲町においては、校長の勤務時間は非常に短く、平均しますと1桁台です。この理由として、遠方から通勤する教職員が多いため、学校からはできるだけ早く帰宅し、出勤は8時前後になるため、平均するとこのような結果になっているのではないかと考えています。大垣議員から小中学校における性教育の現状について質問がありました。低学年は生活科・学級活動、中学年以上

は保健体育で、教科書に沿った学習、発達段階、児童生徒の状況に応じて養護教諭が指導していると回答しています。

9月9日に両中学校で体育祭が行われました。仁多中学校では、この後、インフルエンザが流行し、3年生と2年生が休んでいます。

大仁農道で土砂災害が発生したため、9月10日から13日まで定期バスが通行不能になり、高田地区、郡の児童生徒が通学できなくなりました。そのため、タクシーにて該当の児童生徒の送迎を行うという対応を行いました。

9月14日からは仁多地域の小学校が広島方面へ合同で修学旅行へ行っています。横田地域の小学校は、10月19日から合同の修学旅行を予定しています。仁多中学校と横田中学校については、本日から近畿地方へ修学旅行へ行っています。

小学校の統合の関係ですが、高尾地区の方から1年前倒しの編入の希望が出ていると聞いています。議会にかける関係等もありますので、高尾地区の意見を確認しながら、早ければ来月のところでこの件について、教育委員の皆様の意見を頂戴するような運びに持って行きたいと考えています。

10月には人事異動の関係が始まります。今年から教職員の定年が延びています。校長・教頭については、60歳をもって役職定年になりますが、本人からの希望があり、県の審査が通れば62歳まで勤務が可能です。今年、本町で役職定年を迎える校長は、阿井小学校、鳥上小学校、八川小学校の3名です。また、仁多中学校の校長、横田小学校の校長は定年を迎えていますが、これは、暫定再任用という雇用形態であり、給与体系も異なっています。これも本人の希望があれば継続という形になっています。今年から定年が62歳になりましたが、60歳で退職、60歳から62歳まで短時間で勤めるなど、フレキシブルな勤務ができるようになりました。今後、本人の希望を聞きながらこのような体制をとるようになってくると思っています。

参加者4名

※開会宣言 教育委員の出席者数を確認し、会議の成立を宣言

※会議録署名委員 谷尻委員

・その他

※資料により説明

○令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

奥出雲町の小学6年生の平均正解率

国語 65.0

算数 62.0

奥出雲町の中学生3年生の平均正解率

国語 73.0

数学 48.0

英語 38.0

小学校、中学校共に全国と比較すると差が縮まりませんが、令和4年12月に実施された県独自の学力調査の結果と比較すると、かなり頑張ってくれています。9月定例議会にて、大垣議員からこの結果をどう考えるかという質問がありましたが、今年についていうと、12月と比べると子どもたちも頑張っていますし、担任の方も弱いところをかなり補充してくれたのではないかと思います。ですが、全国までは届いていない要因として、人数が少ないため、児童・生徒一人一人の影響が大きいこと、学級や学年の雰囲気によって左右されることがあるため、年度によって差が出てくるのではないかと思います。

奥出雲町の子どもたちの弱点として、受け身の学習があると思います。今後の対応として、授業の質の充実、家庭学習の充実、地域に関わる学習の充実の3つをあげています。地域に関わる学習の充実として、ふるさと学習、ふるさと教育を中心に取り組んでいますが、課題可決や、学んだことを生活の中で活かそうというところまで達していないという状況です。授業の質の充実という点については、人数が少ないため理論的に説明しなくても他の人が分かってくれるという雰囲気があり、書くより言葉で言った方が早いという状況があるため、この辺りは質の充実は求めていく必要があります。家庭学習については、中学生に関しては家庭に帰る時間が遅くなるため、十分な学習時間をとることができないところがあります。

各学校にお願いをしていますが、今年から自分が苦手なところを繰り返し学習できるようなアプリを導入しています。小学生は、算数のみ、中学生は、主要5教科使えるものを導入、配布をしています。学校間で使用頻度の差がかなりあります。先般、担当から学校へアプリの使用状況を配布し、私の方からアプリを使うようにお願いをしています。このような点で、意識の面から変えていかないといけないと思っています。

谷尻委員

学校間でのアプリの使用時間の差ですが、大きな学校ほど短いという傾向はありますか。大きな学校は児童数が多く、指導に時間がとられると思うのですが。

教育長

学校の規模は関係ありません。両中学校を比較すると、仁多中学校は長いですが、横田中学校ではあまり使っていません。具体的に聞いたわけではありませんが、原因として、各教職員によって得手不得手があるため、このような差が出ているのではないかと思います。

谷尻委員

そのような差をなくすには、教職員の皆さんの力を上げるしかないですね。

教育長

奥出雲町では、今年4回程度、研修を開催しています。今回、配布したアプリをどのように使っていくかという点が次の問題だと思っています。

松崎委員	<p>私の娘は4年生ですが、この4年間でクロームブックを持ち帰った回数は2、3回くらいだと記憶しています。その際にどのようなアプリかと思って一緒に使ってみたのですが、漢字の書き取りはペンがうまく動いてくれなく、紙で書けば5秒、10秒で終わる問題に1、2分かかるのでストレスを感じました。</p>
教育長	<p>国語は、書くことがかなり多いのでアプリで勉強するには向いていません。そのため、今年から算数のみにしています。算数についても、タブレットのみで計算などをしようとするとうまくいきません。計算用紙として紙を渡すなど、教員のスキル・指導力で差が出てくるのだと思います。</p>
福田委員	<p>子どもたちは負担を感じると使いたがりません。そのため、教職員は、子どもたちにこれは便利だなと実感するような使い方を指導する必要があります。ただ、教職員のみを任せるとはならず、松崎委員のように保護者も子どもと一緒に使用し、その使い方を考える必要があると思います。</p>
谷尻委員	<p>家庭学習の時間が取れていないという話でしたが、親が見てあげられないというのも原因ではないかと、話を聞きながら思いました。</p>
福田委員	<p>保護者も仕事があるのでしんどいと思いますが、私自身、教科書の何ページをしてくなさいという宿題を出していましたが、書く力をつけるという点においては、意味がなかったと私自身反省しています。子どもたちは、書くことに慣れていない、だからこそ慣れさせる必要があると思います。そのために一番いい方法は、三行でもいいので自分の生活を振り返って日記を付けさせて、それを教員が評価して返してやることだと思います。</p>
教育長	<p>今までのお話は、学習の質という部分に入ってきます。教員の中にもICT機器をとりあえず使えばいいという雰囲気がありましたが、本当は、どの教科にどのようにタブレットを活用すればいいかということを考えてほしかったです。</p> <p>また、ICT機器は分からないから教員に任せておけばいいという考えの保護者が増えてしまうと本当にどうしようもなくなってしまいます。タブレットを自宅に持ち帰ったらゲームばかりしているなど、家庭でのタブレットの使用方法に対して、学校はそこまで介入できません。</p>
松崎委員	<p>将来的に正解がないものに対して自分なりの答えを出していくという力が問われていくと思います。そのため、小学校の授業でも、自分で考えて発言するというディスカッション形式のものを積極的に取り入れています。得意な学年とそうでない学年の差があるように感じました。その違いは何かと考えました。クラスの雰囲気などもあると思いますが、幼稚園の先生が子ども同士で話し合っただけというのを保育の中に入れており、それがうまい具合に小学校の教育と結びついて能力を伸ばしているのではないかと思います。幼稚園と小学校の連携も大切だなと、</p>

谷尻委員	<p>今になってすごく思いました。</p> <p>喧嘩してでも自分の考えを出し切る必要があると思います。そのような経験するというのは大切だと思います。</p>
福田委員	<p>ただ議論をしろと言っても、自分がどう考えているのか、という考えを持たない限り議論はできません。議論をする前段で一人一人が議題についてどう思うのか、考えられるような授業をしないと難しいと思います。松崎委員の言うように、小さい頃から自分の考えを持つということを育てていく必要があると思います。そういう意味では、なるべく小さな時から絵本の読み聞かせなどを通して、自分の考えを持つということをやっていく必要があると思います。</p>
荒金委員	<p>書くこと、話すこと、どちらも大切だと思います。回顧主義的に昔がよかったという意味ではありませんが、最近、昔と比べて作文など、自分で文書を書いて見直すという機会が減っているように感じています。私もよくしてしまいますが、パソコンやスマホで文字を打って見直さずに発信してしまうことがあると思います。見直すという作業を日ごろから行うようにしておかないと、子どもたちが成長過程、または、大人になった時、ネット上で様々なトラブルに発展しそうな気がしています。</p>
教育長	<p>松崎委員がおっしゃっていましたが、幼稚園と小学校の連携というものは、今まで個別の支援を必要とする子どもや家庭を中心に行っていました。今後は、広い意味での幼少連携、課題のある所への対応から課題をなくす方向へやっていかないといけないと考えています。そのような方向へ、今年、ついに第1歩を踏み出すために動いているところです。</p> <p>冒頭で弁論大会の話をしました。今年は久しぶりに聴衆を前にして弁論しましたが、出場した子の多くが聴衆に対して語るということができていませんでした。自分の考えを多くの聴衆へ抑揚をつけてうまく伝えることがまだまだできていないと思います。この原因の1つにコロナがあると思います。アフターコロナになった現在、少しでも早くコロナ前の状況に戻し、今、必要とされている力をどうつけていくかという発想に変えていく必要があります。</p>
教育長	<p>○奥出雲町教育委員会感謝状について</p> <p>※資料により説明</p> <p>訂正箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4条の3 幼稚園長の部分を削除</li> <li>・記念品なし</li> </ul> <p>推薦の目安</p>

松崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動に対し、5年以上にわたって協力し、その貢献が著しいと認められる個人、団体（原則としてボランティア）</li> <li>・学校の教育環境整備に対し、5年以上にわたって協力し、その貢献が著しいと認められる個人・団体（原則としてボランティア）</li> <li>・教育委員会の管轄する基金、複数の学校を対象に、総額で100万円以上の私財、もしくはそれ相当額の寄付をした個人・団体。</li> <li>・単独の学校に対し、総額50万円以上の私財、もしくはそれ相当額の寄付をした個人・団体。</li> </ul> <p>その他、校長もしくは教育魅力課長が感謝状を贈呈するにふさわしいと判断した個人・団体。</p> <p>教育委員会から各学校へこの要綱を配布した際に、どのような人を推薦したらいいかという質問があると思います、このような提案をさせていただきました。この案についてご意見を頂戴したいと思います。</p>
教育長	<p>これは、現在もボランティア活動をしている方のみ対象ですか。</p> <p>例えば、10年以上前に活動をしてくださっていたので、さかのぼって表彰するというのは難しいと思います。ですが、今年亡くなられたみたいな方は対象にしてもいいと思います。</p> <p>今年辞められましたが、馬木の老人会さんがボランティアで木の剪定をやってくださっていました。私としては、閉校にあたって、各小学校とも各地域の方にお世話になっていますので、それに対して何らかの形でお返しできればと思っています。</p>
福田委員	<p>馬木の老人会さんは表彰すべきだと思います。木の剪定もですが、紙芝居や読み語りを長い期間してくださっています。閉校にあたって、各小学校でお世話になった方々を目に見える状態にしてほしいと思います。そして、それを元に新しい学校へ、また支援をしていただける文化ができることが一番だと思います。</p> <p>目安としては、これはいいと思います。</p>
教育長	<p>詳細な内容については、今後、学校と相談をしたいと思います。</p>
事務局	<p>○仁多、横田地域統合学校平面プラン（案）について ※資料により説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁多統合小学校</li> </ul> <p>放課後児童クラブ併設予定。それに伴い、教職員、送迎の保護者が利用することを想定し、約50台駐車できる駐車場を確保予定。家庭科室エリアをシャッターで区切り、体育館および図書室を利用できるような環境を想定。</p> <p>相談室を2つ設け、保健室登校の児童への対応、保護者との相談に利用。</p> <p>教職員用トイレブースが1つしかないため、業間などに教員が一か所に集まってしまう問題がある。</p>

	<p>売りとして設計事務所から棚田ホールを提案されているが、トイレなどのブースを考え、最悪、なくすことを考えている。</p> <p>・新横田小学校 放課後児童クラブ併設予定。併設部分は、午前中は児童が通常の活動で使用することを想定。放課後児童クラブの送迎については、大同側から入り、永生クリニック側へ出るというルールを設ける等の協議を推進委員会で行っている。 トレイはすべて洋式に変更。 統合当初、35名クラスができる可能性があるため、現在、図書室として利用している教室を通常教室として利用予定。将来的に人数が少なかった場合は、2つに分けて通級指導教室として利用する想定。</p>
谷尻委員	<p>仁多地域の統合小学校はトイレが少ないですね。放課後児童クラブの子どもたちは、どこのトイレを使用する想定ですか。</p>
事務局	<p>この図面では1つしかトイレブースがありませんが、体育館のトイレも使用する想定をしています。ただ、教職員用のトイレが男女1ブースずつしかないため、業間などの限られた時間に教職員がトイレに集うことになり、問題があります。最低でも男女ともに2ブースずつ必要ではないかと思っています。</p>
谷尻委員	<p>前提として3階で授業をしている教職員も1階のトイレまで降りるということですか。2階、3階に教職員用のトイレを作ることはできないのですか。</p>
事務局	<p>作れないことはないと思いますが。職員室に戻るという前提があるのでしょうか。</p>
福田委員	<p>教職員用のトレイは、基本的に1階にしかありません。もし、教職員用のトイレを増やすとすると児童のトイレを減らすしかないのでしょうか。</p>
事務局	<p>校舎棟が4,176㎡、体育館・グラウンドで1,600㎡、合計で約5,700㎡となります。当初、校舎棟だけで5,100㎡程度ある図面を業者が持ってきましたが、現在の児童クラブと小学校の間にある道路を車が通ることができなくなるため、現在の図面になっています。</p>
教育長	<p>万が一のことを考えた場合、そこの動線を確保しておく必要があると判断しています。現在、棚田ホールをどうするか検討しています。</p>
事務局	<p>保健室の反対側に教室1つ分、給食のコンテナを受け取りのための荷受け室を設けていますが、この広さが必要か、という疑問が出てきています。</p>
教育長	<p>統合後は、最低6から7のコンテナを荷受けすることになります。返す時間はま</p>

	ちまちまになると思いますが、部屋から取り出す時間はほぼ一緒になると思います。
福田委員	出し入れを考えるとこのくらいの広さは必要ではないでしょうか。狭いと使いにくいと思います。
松崎委員	棚田ホールはどのような目的で使う予定でしょうか。
事務局	子どもたちが発表する様子を下から見るという想定ではないかと思います。ただ、階段の下が3メートルしかないので、そのように活用できるのか、どうなのかと。 また、棚田ホールの階段は、腰掛を前提にしているため、通常、蹴上は16、17センチですが、その約倍の30センチあり、奥行きも深くなっています。
福田委員	日常的に使う階段としては高いですね。雰囲気としてはいいと思いますが。
松崎委員	いっそのこと棚田ホールを外してしまって、多機能的な図書室にするなど、子どもたちが行きたくなる図書室にするというのはどうでしょうか。
事務局	イメージ的にはおしゃれなのですが、極端なことを言うと、図書室を倍にできる程度スペースをとっています。
谷尻委員	棚田ホールの下に雨具と書いてありますが、ここは雨具入れでしょうか。雨具入れであれば、全員分の雨具は入れられますか。
教育長	おそらく、そこまでの使い勝手は考えられていないと思います。どちらかという と、棚田ホールの階段下の活用という意味で雨具入れになっている可能性があるのかと。防犯面から考えると、この雨具置き場は逆にあった方がいいと思います。そうすれば、職員室から昇降口をすべて見ることができます。
谷尻委員	確かにこのままだと職員室から昇降口が半分しか見えませんね。
教育長	もう1つ、3階部分の多目的教室ですが、通常教室と同じ広さしかありません。 1.5倍程度あれば2学級一緒に使えますが。
谷尻委員	この棚田ホールは、何人座ることができますか。
教育長	せいぜい1学年ですかね。
福田委員	それだったら教室ですればいいのでは。
教育長	いろいろ課題があると思います。1つは、トイレの数、後は、棚田ホールの方も



再検討をお願いできればと思います。

谷尻委員

あと、冬場の下駄箱のことも考えてほしいと思います。仁多庁舎は、長靴を入れる下駄箱が足りませんでしたから。

事務局

最終的には学校側の意見を聞きながら、やむを得ない場合は柵田ホールをあきらめても子どもたちのために実用的なものを思っています。

教育長

特別教室、屋内運動場にも空調はつくのでしょうか。

事務局

横田小学校のワークスペースを除いた廊下以外の教室に空調がつく予定にしています。

福田委員

大枠、いいのではないのでしょうか。

教育長

よろしいでしょうか。先ほどの下駄箱の問題など、今後対応できると思います。

< 次回定例会は10月25日（水）午後 15時00分より（予定） >

### 会 議 録 署 名

署名委員

谷尻 圭子

教育長

松田 武彦